護國

万灯みたま祭

御祭神数

当神社に御鎮祭申し上げております御祭神は四万九千七百二十七柱です。

終戦記念日祭挨拶

宮司　額田照彦

本日の終戦記念日祭に際しましては、皆様には猛暑、ご多用の中、御参列賜りまして誠に有難く厚く御礼申し上げます。

また、日頃より英霊の慰霊顕彰、神社護持には、本日御参列の皆様方をはじめ、関係諸団体・友好団体の皆様には格別のご配意を賜り有難く重ねて御礼申し上げます。

只今、御神前に謹みて皇室の弥栄と、先の大戦に於いて、国の為尊い命を捧げ散華された英霊に対し、報恩感謝と御霊の安鎮、国家国民の安全、世界平和をご祈念申し上げました。

終戦から七十二回目の八月十五日を迎え、当時、国家存亡の岐路に立った危機的、衝撃的な生々しい体験をした、青年淑女も御遺族も優に九十歳を超える八月十五日となり、御遺族の高齢化は日々に増し、その記憶の存在も希薄になって参りました。

先日、終戦の日を前に、あるテレビ局が、全国の十八歳と十九歳を対象に行った世論調査によると「日本が終戦を迎えた日」について、実に十四％の十八歳・十九歳の若者が「知らない」と答えたとの報道でした。

教育の専門家は「危機的な数字だ」とも伝えており、教育の重要性を指摘していました。もちろん教育現場において、充分な時間を割いて、この問題を教育してこなかった事も要因ではありますが、我々自身も若い世代や次の世代の子供・児童達に対して、先の大戦について真摯に語り、分りやすく伝え、平和の大切さや尊さを伝えてこなかったのが要因ではとも思い起こしました。

先月、毎年松山市の主催で開催されております、「平和資料展」を拝観する機会がありました。

市民から寄贈されたり、提供された当時を

偲ぶ、貴重な戦争遺品の展示や、パネル資料や松山空襲・戦時下の松山の写真パネルの展示、広島・長崎の原爆関係のパネルも展示されており、また当神社の崇敬会長であり、松山市遺族会会長でもあります、愛原会長自らが松山空襲の貴重な体験を語り伝える、平和の語り部や、紙芝居による平和のお話等の企画も行なわれていました。

資料展の冒頭の市の挨拶文には「……今日めざましい発展を遂げて来ましたが、このことは多くの尊い犠牲の上に築かれていることを決して風化させてはなりません」……「今一度戦争の教訓を心に刻むとともに、長く後世に伝え、再びあのような惨禍を繰り返すことのないよう決意を新たにし、恒久平和の実現を願い、平和資料展を開催した」とありました。

今後益々、先の大戦の体験や、記憶は風化して行く懸念が増してきております。

また、直接その貴重な体験を語り継いで行く人々も少なくなっている中、こうした資料や記録、遺品等により、できるだけ正しく、戦争の体験と教訓を伝え、次の世代へ引き継いで行く事が大切であると考えます。

また、現在国際情勢も予断を許さぬ状況にあるなか、この先の大戦の体験から得る事が出来た、貴重な教訓を想い起し、より一層平和の尊さ、大切さを次代へと伝承して行く事が、尊い命を捧げ散華された英霊の御霊に応えうる道筋であると思います。

来年春に、開設を予定しております「祈念史料室みゆき」には、特に次代を担う若い世代には、改めて平和について考えて頂ける様な施設となるべく、準備を進めております。

今後、歴史・時代が移り変わってゆくなかでも、当神社は未来永劫、御霊の「奉慰顕彰」「国家の安寧」「平和」を祈念して行く事が、責務と考えております。

本日ご参列の皆様方を始め、崇敬者の皆様方には、引き続き神社の護持運営に、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、ご参列の皆様のご健勝と、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

悲劇の第十東予丸（その二）

愛媛縣護國神社崇敬会
会長　愛原　章

瀬戸内海汽船㈱が、今治～尾道間を約二時間半余りで結ぶ直行便で、旧国鉄との連絡線としての役割を果たしていた、第十東予丸（一六一トン）に事故が起きたのは、昭和二十年十一月六日である。

その日、午前七時に定刻をやや遅れて尾道を出港したのだが、定員二〇九名のところへ復員軍人役四〇〇名と一般乗客等を入れて計五二一名が乗船し、その上に手荷物等を満載していたので、見るからに少し傾いて危なげな船に見え、次便を持つことにした人もあったのだが、悲劇はここから始まる。

今治港を目前にした九時三〇分頃、同船は伯方島の東側にある六ツ瀬磯の沖で折からの突風を受け、二、三回大きく揺れた瞬間に転覆した。

当日は晴天で波浪が強かったそうだが、過剰積載のため復元力を失い、瞬く間に沈没したのである。

この状況を見ていた付近を航行中の高島丸（愛媛汽船統制組合）や漁船数隻が、風浪を突いて現場に急行し遭難者の救出活動に当たったが、同地点は潮の流れが早く救助は困難を

極め、後に公開された資料に拠ると、生存者は一〇六名、死亡者は四〇一名、行方不明者は一四名となっている。

行方不明者を探索するため、翌日から潜水夫を入れて死体の引上げ作業等が始まり、潮流と風のため非常に困難な作業になったが、毎日引き上げられる死体は、膨張し無残な姿を新波止海岸（伯方町木浦）に晒すことになった。遺族の確認を待たずして火葬場へ運ぶわけにも行かず、この光景が二週間余りも続いて焼き場へと運ばれたが、引き取り手のない遺骨は近くの禅興寺に預けられ、寺では祭壇を特設して懇ろに供養し、最後に残った一六柱は同寺で共同埋葬された。

この一六柱については復員軍人で、家族が戦地等で死亡したものとあきらめていた人達か、身寄りの無い方達ではなかろうかと言われている。

昭和二十七年一月、愛媛県遺族会は常任理事会を開き、この第十東予丸に乗船していた復員軍人役三〇〇名の遺族を救済するため、これを公務死亡として援護法の対象とすべく、基礎調査として各支部長に遭難者の調査を指示し、吉野理事長が今治港務所、同海運局支所、瀬戸内海汽船㈱へ出向き、遭難者の調査を行って名簿を作成後、関谷勝利、小西英雄の両代議士の名義で請願書を衆参両院に提出して、旧厚生省に対する陳情を行い、同年十二月に、参議院本会議を無事通過したという経緯がある。

なお遭難者には済州島、石垣島、満州等からの引き揚げ者がいたが、その詳細な記録は残っていない。

今年も十一月三日が近づいている。毎年この祭日に伯方町木浦の禅興寺では、島の方達と遺族等が集まって不慮の死を遂げた方達を偲び、当時を知る方の講話を聞き、今治等から応援に見える僧侶もあって、住職と何人かの僧侶による法要が開催されている。

お寺の本堂には「第十東予丸遭難死者諸精霊」と記された、立派な位牌が祀られているし、墓地には「第十東予丸遭難者慰霊碑」も建っているので、ご遺族にはお寺と連絡を取って、一度行かれるとよいと思っている。

また、法要が終わると木浦港に集まって、小型の舟で六ツ瀬磯付近の海上に出て、住職と一緒に献花をする事が出来るので、途中で菊でも買って行かれることをお勧めしたい。

了

靖國神社みたま祭に詣でて

愛媛万葉苑保存会
常任理事　藤原　茂

この夏靖國神社の「みたま祭」にお参りした。「みたま祭」とは、日本古来のお盆に当たる旧歴の七月十三日から四日間、国の為に尊い命を捧げられた英霊を慰める靖國神社の行事として催されており、今年は七十一回目のお祭りであった。

この期間、外苑参道添いに約一万個の大型提灯と、内苑に約二万個の小形提灯が掲げられ境内は献灯で埋め尽くされていた。その間神輿振りや青森ねぶた、江戸芸かっぽれといった奉納行事、盆踊りなど多彩な行事が続き凡そ三十万人のご参拝があると聞く。

一行は県遺族会関谷会長、池見局長を始め遺族会有志の方々の他、護國神社額田宮司、郷友会永井会長、軍恩連盟松原会長ら総勢三十五名。七月十三日松山空港から羽田に到着。途中横浜埠頭の輸入野菜倉庫を見学して靖國神社へ直行。早速「昇殿参拝」を許された。

いつもながら、九段坂から大鳥居をくぐると身の引き締まる思いがするが、ことに昇殿参拝は格別の感動を覚える。華やかな境内の賑わいの中、奥の本殿は荘重な閑けさに包まれていた。私は七十年余の時空を超えて、祖国や同胞の為に戦っていた当時を偲び、感慨無量の中英霊に対し慰霊の祈りを捧げた。

あの艱難を生き長らえてきた過去を顧み、還らぬ人となった戦友たちと交わした「靖國で会おう」の約束を思い慄然となった。そして、総理大臣などの公式参拝さえままならな

い現状に、激しい怒りと恥ずかしさ虚しさを覚えるのであった。

戦後北支から復員して間もないころ、朝日か毎日の写真グラフに、進駐軍の一団が整然と靖國神社に参拝している写真記事に驚くと同時に「流石」と武人らしい挙動に感心したことがあった。さらに、昭和二十六年九月「平和条約」が締結されて間もない十月、当時の吉田首相が閣僚と衆参両院議長を引き連れて秋の靖國例大祭に参詣された記事を覚えている。日本政府が独立達成後「まずは靖國神社への参拝」からという意思表示であった

靖國神社みたま祭

と聞いている。日本人としての信念と矜持に感動した記憶が甦ってきた。国家を背負う当時の政治家達の器量が窺えるが、世間は至極当然のこととしていた。

それがいつの間にか、総理や政治家の公式参拝さえもがままならぬことになり、残念ながら国民の関心も薄らいでいる。

私は数年前、若い友人二人を連れて靖國神社へお参りした。彼等は私の参拝に付き合っただけで、当初は全く関心がなかったが、神社に詣で遊就館を見学し始めてから態度が一変した。殊に「花嫁人形」や大江少佐の「靖國の宮に御霊は鎮まれど折々帰れ母の夢路に」の歌の説明をすると、後は目頭を押さえ黙りこんだままであった。英霊顕彰や靖國神社のことなどは、理屈より「まずはお参りをして遊就館を見学する」ことだと実感した。

しかし、学校行事等での靖國神社訪問など永らく制約されてきた経緯がある。実は昭和二十四年文部次官通達により「学校が主催して靖國神社・護國神社及び主として戦没者を祀った神社を訪問してはならない」とされていた。平成十四年長崎県議会でこの通達を巡って大きな問題になった。つまり長崎県教育長が先の通達により「修学旅行や校外研修で靖國神社や護國神社等に行ってはいけない」と主張したのである。驚いた関係者が文部科学省に、占領下の通達の有効性を質した所「失効している」との回答があった。しかし文科省が失効したことを全国の教育委員会に通達していないため、多くの教育委員会は先の通達に従って学校行事として靖國神社や護國神社に訪問することを避けてきたという。

そこで、平成二十年三月参議院文教科学委員会で渡海文部科学大臣が「該当項目は既に失効している」と初めて公式に表明した。その後平沼赳夫議員が提出した「質問主意書」に対して平成二十年五月二十三日付閣議決定した答弁書で「平和条約の発効により、我が国が完全な主権を回復するに伴い覚書が効力を失った」と正式に表明した。要するに独立と共に失効していた靖國神社等訪問禁止条項を、文部科学省は戦後半世紀以上も放置していたのである。全く驚くべきことであった。（平成二十一年郷友誌九～十月号参照）

私は参拝を終えて万燈の前に立ち、最後の戦友会で永年献灯をしたことを思い出し、我が部隊名の入った献灯を探していた。すると目の前に「騎兵第二十五聯隊会」と書いた提灯があるではないか。続いて復員時所属していた「保定幹部候補生隊会」の献灯にも出会った。何万灯の中から探し出すのは至難のことである。この奇跡のような出会いこそ、亡き戦友や軍馬の霊が私を呼び寄せたに違いないと想い、改めて御霊安かれと祈っていた。つくづく「みたま祭」に参加できたことを感謝している。

『戦友団体等による慰霊祭』

平成二十九年
五月　十三日　愛媛シベリアを語る会
五月二十四日　愛媛県殉職消防職団員
八月　五　日　松山城北高等女学校
十月　八　日　愛媛県隊友会

『遺族会等による慰霊祭』

平成二十九年
四月　三　日　西条市丹原町中川
四月　五　日　西条市楠河
四月　十一日　西条市徳田
四月　十五日　今治市大三島町
四月　十九日　今治市大西町
四月　二十日　西条市三芳
四月　二十日　西条市周布
四月二十一日　松山市正岡
四月二十五日　今治市吉海町
五月　六　日　今治市朝倉
五月二十二日　西予市野村町野村地区
六月二十五日　富山丸
六月二十八日　今治市宮窪町
七月二十六日　西予市野村町渓筋

〈奉納者並びに寄贈図書〉

一、「なぜ、成功する人は
神棚と神社を大切にするのか？」一冊
著者　窪寺　伸浩
東京都中野区沼袋
クボデラ株式会社代表取締役
窪　寺　伸　浩　様

一、「伝道の法」
～人生の「真実」に目覚める時～　一冊
著者　大川　隆法
松山市三番町
幸福の科学　松山中央支部
支部長　森　田　浩　二　様

一、「帝国海軍の航跡」
～父祖たちの証言～　一冊
著者　久野　潤
京都府八幡市男山泉
久　野　潤　様

一、「春日大社　第六十次式年造替　記念誌」一冊
発行者　春日大社
奈良県奈良市春日野町

〈永代祭祀料基金奉納者御芳名〉

平成二十九年　四月
一、弐万円也　伊予郡松前町神崎　西岡　和則　様
仝　五月
一、五万円也　今治市大西町山之内　竹内　誠治　様
仝　六月
一、参万円也　松山市越智　山下　泰子　様
仝　八月
一、参万円也　西予市野村町野村　大塚ヤスヱ　様

平成二十九年（四月）春季慰霊大祭奉仕者

（敬称略）

遺族会代表献供奉仕者
女　性　部　今治市孫兵衛作乙　梶　本　壽美子
遺　児　今治市大西町山之内　竹　内　誠　治

献茶菓奉仕者（茶道裏千家淡交会松山支部）
武市宗静社中　松山市東一万町　平　家　美　奈
古市宗文社中　松山市和気町　足　立　宗　敬

献花奉仕者（愛媛県華道会）
聽　春　流　松山市二番町　竹　本　ゆりあ
聽　春　流　松山市二番町　丹　下　利　香

敬神婦人会代表献供奉仕者（愛媛縣護國神社敬神婦人会）
新居浜市遺族会　新居浜市宮原町　千　葉　千津子
新居浜市遺族会　新居浜市繁本町　奥　出　恵　子

幣殿献花奉仕者（華道家元池坊松山支部）
松山市善応寺甲　松　浦　都
伊予郡砥部町千足　中　田　易功子

献吟奉仕者
九日（霊璽奉安祭）
清吟堂吟友会　片　上　清　陽
清吟堂吟友会　大　西　清　祐
清吟堂吟友会　長　野　清　祐

尺八献奉者
清吟堂吟友会　元　岡　清　専
十日（大祭）
清吟堂吟友会　永　井　清　長
清吟堂吟友会　大　越　清　透
清吟堂吟友会　吉　野　清　萌

尺八献奉者
清吟堂吟友会　坂　本　清　堅

献謡奉仕者（愛媛縣護國神社献謡会）
九日（霊璽奉安祭）
「献謡」
村井安夫会長以下有志一同

正式参拝

☆平成二十九年四月五日
松山市遺族会
会長　愛原　章　様
計五名

☆平成二十九年五月十四日
連歌奉納
にぎたつ連歌会
代表　宮武　純一　様
計三十名

☆平成二十九年五月十五日
靖國神社御創建百五十年
天皇陛下御親拝祈願
靖國會事務局長　沼山　光洋　様

☆平成二十九年五月十九日
松山市戦歿者遺児有志の会
会長　愛原　章　様
計十三名

☆平成二十九年五月二十四日
愛媛県遺族会女性部
部長　清家　征子　様
計二十名

☆平成二十九年五月二十四日
台湾バシー海峡訪問団偲ぶ会
代表　林　忠　様
計十二名

☆平成二十九年五月二十八日
レイテ偲ぶ会
代表　猪狩　康一　様
計六名

☆平成二十九年五月二十九日
愛媛県遺族会理事会
会長　関谷　勝嗣　様
計二十二名

☆平成二十九年六月十九日
広島市遺族会
会長　山田　義春　様
計二十六名

☆平成二十九年六月二十六日
愛媛県遺族会評議員会
会長　関谷　勝嗣　様
計二十六名

☆平成二十九年六月三十日
松山市遺族会役員会
会長　愛原　章　様
計四十名

☆平成二十九年七月一日
英霊にこたえる会愛媛県本部
会長　佐伯　要　様
計三十五名

☆平成二十九年八月五日
ＮＰＯ法人まつやま山頭火倶楽部
事務局長　太田　和博　様
計五名

☆平成二十九年八月八日
愛媛県瓦工事業組合
理事長　日野　克則　様
計二十二名

☆平成二十九年八月十五日
伊豫豆比古命神社
宮司　長曽我部　昭一郎　様
計四名

☆平成二十九年九月六日
英霊にこたえる会
中国・四国ブロック大会
愛媛県本部
顧問　横田　弘之　様
計三十名

☆平成二十九年九月十一日
松山市遺族会役員会
会長　愛原　章　様
計四十九名

☆平成二十九年九月二十日
徳島県三好遺族連合会
会長　木下　豊幸　様
計二十四名

☆平成二十九年九月二十一日
和プロジェクトＴＡＩＳＨＩ
奉納揮毫
書道家　林　龍峯　様
計四十三名